広報きたいばらき
Kitaibaraki city Information
市制施行 60 周年特別号
平成 28 年 3 月 26 日発行

北茨城市
60年の軌跡

～そして未来へ～

北茨城市長
豊田　稔

北茨城市は昭和31年3月31日に誕生し、60年の節目の年を迎えました。昭和30年代は、本市発展の礎でもあった石炭産業の衰退により産業・経済構造が大きく変わるなど、幾多の試練や苦難がありました。その後、工業団地造成など新たな地域振興策を展開する一方、小・中学校建替え、保育所の開設や茜平青少年の家の開所など市民福祉向上、上下水道施設整備、磯原駅西土地区画整理、道路網など都市基盤の整備、さらには港湾改修、土地改良など産業基盤の確立を図り、市民の皆様の暮らしに密着した市政を進めてまいりました。

ひとえに、今日の北茨城市の発展は、多くの先人の方々が夢と希望を抱き理想のまちづくりのため、たゆまぬ努力を続けてこられた成果であります。

しかしながら、平成23年3月11日、当市にとって決して忘れてはならない東日本大震災が発生し、家屋倒壊、電気、水道、道路網などライフラインの寸断、港湾や漁業施設が壊滅的な被害を受けるなど未曾有の大災害となりました。このような逆境にあっても私たちは、これまでに培ってきた地域の絆や幾多の困難を乗り越えてきた知恵と経験により、ひるむことなく震災から復興し未来へ大きく飛躍しようとしております。

市制施行60周年の節目にあたり、本市の発展に寄与された多くの方々に改めて敬意を表するとともに、本市の更なる発展を願い、市民の皆様、議会、行政の協働により誰もが安心して生活ができ、誰もが住んでみたい「健康都市づくり」を北茨城創生への政策の柱として、市民の皆様とともに歩んでまいります。

ごあいさつ

北茨城市議会議長
鈴木　和栄

このたび、市制施行60周年にあたり、市議会を代表いたしましてごあいさつを申し上げます。

北茨城市は、昭和31年の市制施行後、エネルギー革命による石炭産業の衰退により、人口が大きく減少した時期もありました。その後、本市は、工業用地造成など産業基盤の整備、企業誘致、進出企業の税制優遇措置などを積極的に押し進め、発展への道を切り開いてまいりました。

これまでの発展にご尽力を賜りました多くの皆様方に対し、敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

平成23年に発生した東日本大震災では、甚大な被害に見舞われましたが、市執行部はじめ、多くの皆様のご尽力により、震災からの復興にいち早く取り組まれ、生活基盤の整備が進み、新市民病院及び家庭医療センターの開院、新消防庁舎の建設など、安心、安全なまちづくりの拠点となる施設整備が進みました。また、教育文化の振興面においても、新図書館の開館や関本小中一貫校の開校を間近に控え、明るい未来への第一歩を踏み出したところです。

市議会といたしましても、市制施行60周年の節目にあたり、地域経済の活性化や魅力あるまちづくりを推進するため、更に市民の皆様のご意見やご要望を十分にお聞きしながら、北茨城市発展のため全力で取り組んでまいる所存でございます。

北茨城市誕生、そして産業の転換

北茨城市は、昭和31年3月31日、磯原町、大津町、平潟町、関南村、関本村、南中郷村が合併し、県内15番目の市として誕生しました。

まず、道路や学校、住宅など市民生活の基盤となるインフラ整備が進められました。東西に広い北茨城市では農林水産商工業と多岐にわたる産業が発達し、特に石炭産業が盛んで、大小20以上もの炭鉱が操業していました。しかし、「石炭から石油へ」のエネルギー革命の波の影響を受け徐々に衰退、昭和46年にはすべての炭鉱が閉山となり、同時に大幅な人口減少に見舞われました。

市では、昭和40年当初から磯原工業団地の造成に着手し、併せて住宅団地の造成も進めるなど、職住一体の工業都市への転換を進めてきました。さらに、上水道や消防署、市民病院も整備、乳児や老人、障がい者の医療費無料化など医療や福祉の充実も進めました。

大津漁港の水揚げ風景　昭和30年代

中郷炭鉱の選炭と積み出しポケット　昭和30年代

暮れ市でにぎわう磯原駅前通り
昭和30年代

中郷第一小学校の給食の様子　昭和40年

平潟漁港と街並み　昭和40年頃

昭和31年－40年

31年　市制施行（3町3村合併）
　　市長選挙執行　初代市長に片寄富七氏就任
32年　市議会議員選挙実施　当時は6選挙区（華川以外）定員36人
　　大津町の御船祭17年ぶりに開催
　　磯原町本町に市役所庁舎完成
33年　磯原地区商工会を結成
　　水沼へき地診療所が完成
34年　北茨城市立病院が完成
　　第1回市長杯争奪野球大会開催
35年　中郷町有線放送電話が開通
　　大津岬灯台が完成
　　国道6号舗装化が二ツ島まで完了
　　二ツ島公園が整備されブロンズ像を建立
　　北茨城市商工会を結成
36年　市消防団改組により19分団に統合
37年　華川、磯原、関南、関本有線放送開始
38年　関本町小川地区が電化される
　　常磐線上野－平間が電化開通
　　茨城大学五浦研究所内に天心記念館が完成
39年　上水道事業起工
　　市長選挙執行　豊田實氏就任
　　関本町平袖地区が電化される
40年　華川浄水場が完成
　　磯原工業団地第1期造成工事着手

磯原立体橋が建設された　昭和44年

造成が進む磯原工業団地　昭和42年

市制15周年記念式典　昭和46年

水沼ダム完成　昭和41年

茨城国体ウエイトリフティング競技
（磯原中学校体育館にて）昭和49年

昭和41年－50年

41年　中郷、磯原、華川、関南、大津、関本の農協が合併
上水道給水開始
水沼ダム完成

42年　磯原工業団地第2、3期造成工事着手
大日本炭鉱閉山

43年　北茨城市民歌の発表会を開催
北茨城市消防本部発足
水沼小中学校が開校（花園・才丸小中学校統合）
自動電話（ダイヤル式電話）が開通

44年　NHK北茨城市テレビ放送局高帽山に開局
北茨城郵便局が発足（磯原、中郷が統合）
関本炭鉱、重内炭鉱閉山

45年　消防庁舎完成

46年　常磐炭鉱中郷鉱、神ノ山鉱閉山
市制施行15周年記念式典挙行

47年　磯原B工業団地造成工事着手
晴々荘、偕山荘が老人憩いの家として開所
茜平青少年の家開所
磯原住宅団地起工式

48年　磯原駅前通りで月1回の歩行者天国開始
市公害防止条例制定

49年　御船祭が13年ぶりに開催
中郷地区簡易水道給水開始
第29回国民体育大会茨城大会　市内でウェイトリフティング競技が開催される
磯原B工業団地第2期造成工事着手

50年　北茨城市総合計画基本構想策定
市長選挙執行　柴田章氏就任

整う生活基盤、そして文化の風薫る

工業団地の造成と企業誘致、住宅団地の整備により、人口も回復しました。

これまで遅れていた都市基盤の整備が急ピッチで進められ、道路、住宅団地、農地、漁港などが次々と整備されました。また、市制20周年記念事業として「市民まつり」が昭和51年に初開催され、また、市民体育館、市民野球場などのスポーツ施設、さらには歴史民俗資料館や公民館など生涯学習施設が整備されました。

昭和63年には常磐自動車道がいわき中央インターチェンジまで開通し、工業団地などの企業誘致が一層促進されました。またこの開通は、首都圏との時間的距離を一気に縮めることとなり、磯原節全国大会の開催、平潟港温泉の整備やガラス工房シリカのオープンなど、観光の分野にも新たな展開をもたらし始めました。

市民野球場完成　昭和55年

市民プール完成　昭和53年

特急ひたちが磯原駅、大津港駅各駅に停車　昭和60年

学校給食センター稼働　昭和57年

生活改善グループの青空市　昭和58年

昭和51年－60年

51年　市制施行20周年記念式典挙行
第27回全国植樹祭に併せて、茜平青少年の家に昭和天皇、皇后両陛下ご来市
第1回市民まつり開催

52年　大津の盆船流しが市文化財第1号に指定
台風11号が本市を襲う

53年　市民体育館、市民プール、サッカー・ラグビー場が完成
磯原駅西土地区画整理事業に着手
休日、祝日の当番医制度開始

54年　大津の盆船流し行事が県文化財に指定
清掃センター操業開始
巡回文庫（移動図書館）開始

55年　歴史民俗資料館完成
長野県中野市と姉妹都市提携

56年　二ツ島立体交差完成
市制施行25周年記念式典挙行
市民憲章、市の木・花・鳥を制定
市民号第10回記念として中野市訪問

57年　給食センター、中郷浄水場完成

58年　心身障害者福祉センター完成
華川分水場と湯の網配水場完成
環境センター完成

59年　保健センター完成
15年ぶりに人口5万人を突破
芸術鑑賞号始まる

60年　B&G海洋センタープール完成
「科学万博つくば'85」で北茨城の日開催
中郷工業団地が分譲開始

常磐自動車道　日立北ーいわき中央間が全面開通　昭和 63 年

台風 10 号による大雨で市内 2000 世帯が浸水　昭和 61 年

「第１回雨情の里トライアスロン in 北茨城」開催　平成４年

昭和61年ー平成7年

61年　台風10号の大雨で2千世帯が浸水
　　市長選挙執行　松崎龍夫氏就任
62年　市制施行30周年記念式典挙行
　　県立北茨城養護学校開校
　　新市庁舎完成　ＪＲ３駅内に市民サービスセンター窓口を開設
63年　常磐自動車道日立北ーいわき中央間開通
　　第１回磯原節全国大会開催

平成

元年　第１回雨情の里童謡の集い開催
　　市立図書館開館
　　老人福祉センター「ライト」完成
　　新大北橋、八八橋で市道高萩磯原線が開通
　　第１回雨情の里港まつり開催
　　市民ふれあいセンター完成
2年　大津漁村センター「ポートオオツ」完成
　　市長選挙執行　豊田稔氏就任
4年　名誉市民胸像除幕式挙行
　　歴史民俗資料館　入館者１００万人突破
　　第１回親子ふれあいの船
　　磯原駅東まちなみ整備事業完成（からくり時計・公園）
5年　雨情の里スポーツ広場完成
　　平潟港温泉通湯開始
　　五浦海岸六角堂周辺の侵食対策人工崖完成
6年　雨情没後50年祭開催
　　ガラス工房「シリカ」オープン
7年　阪神淡路大震災被災地へ市職員救援隊派遣
　　童謡の森ふれあいパーク完成
　　市長選挙執行　村田省吾氏就任
　　十石トンネル開通
　　災害相互応援協定締結（日立市、高萩市、十王町）

豊かさを求めて、震災そして復興へ

磯原駅の橋上化が完成、新しい「市の玄関口」として生まれ変わりました。

観光面では、茨城県天心記念五浦美術館が開館、またマウントあかね、中郷温泉通りゃんせなどがオープンし、一層の充実が図られています。

行政においても日曜開庁の実施、コンビニ納税による住民利便の向上や、出産祝金制度の開始、中郷子どもの家の開設といった次世代を担う子どもへの支援策もスタートしました。

平成23年３月11日午後２時46分、東日本大震災が発生、関連死を含む10名の尊い生命が失われ、約８千戸の家屋被害をはじめ、施設や観光資源にも大きな被害をもたらしました。また、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染による風評被害は、今もなお続いています。

東日本大震災から、一日も早く元の生活を取り返すため、「元気！北茨城」を合言葉に市民が一体となり復興への歩みが始まりました。

小学校にパソコン導入　平成９年

常磐線磯原駅橋上駅と自由通路完成　平成９年

中郷温泉「通りゃんせ」オープン
平成11年

市内巡回バス本格運行　平成15年

茨城県天心記念五浦美術館開館　平成９年

平成８年－17年

8年　泉沢霊園完成
　　市制施行40周年記念式典挙行
9年　ＪＲ常磐線磯原橋上駅・自由通路竣工
　　茨城県天心記念五浦美術館開館
10年　五浦岬公園完成
　　常磐三市災害相互応援協定締結（いわき市、高萩市）
　　市営斎場「やすらぎ聖苑」完成
11年　中郷温泉「通りゃんせ」オープン
　　ニュージーランド国ワイロア地区と国際親善友好都市提携
12年　「マウントあかね」オープン
13年　防災コミュニティセンター完成
14年　平潟漁港の不発弾処理で１９３世帯が避難
　　花園地域交流センター「花園もーる」オープン
　　市内巡回バス運行開始
　　茨城高校総体開催（ロードレース）
15年　ごみ処理有料化スタート
16年　農山漁村交流促進特区認定（農家民宿、どぶろく製造）
　　常陸宮同妃両殿下ご来市
17年　市道里親制度スタート（３団体調印）
　　地震、津波に備え、市内24カ所に半鐘設置
　　公共下水道供用開始

市民夏まつり開催　平成20年から

平潟地区の被害

東日本大震災の爪あと　平成23年3月11日

市役所に避難してきた市民

中郷子どもの家オープン　平成22年

磯原町６号国道脇の大北川の被害

平成18年ー平成28年

18年　市制施行50周年記念式典挙行
19年　漁業歴史資料館「よう・そろー」オープン
20年　第１回市民夏まつりを磯原駅周辺で開催
　　消防団女性分団誕生
　　石岡第一発電所が国指定重要文化財に登録
21年　市役所本庁の日曜開庁開始
22年　第１回石岡さくら祭り開催
23年　東日本大震災発生（マグニチュード９・０震度６弱）
　　天皇、皇后両陛下ご来市　震災被害のご視察と避難者を見舞われる
　　きたいばらき元気市開催（サッカー・ラグビー場）
　　磯原駅西に放射能対策プラザ開設
24年　五浦六角堂が茨城大学により再建される
　　震災記録写真集「明日を信じて　元気！北茨城」を発行
　　震災復興支援展覧会「生誕１１０周年記念ウォルト・ディズニー展」開催
25年　防災行政無線（51カ所）設置完了
　　北茨城市のイメージキャラクターが決定
　　廃棄物と環境を考える協議会加盟団体（１都５県65市町村）と災害時相互応援協定締結
26年　五浦岬公園展望慰霊塔完成
　　平潟、大津、中郷の災害公営住宅入居開始
　　大津漁港内に非破壊放射能検査施設が完成
　　第１回全国あんこうサミット開催
　　北茨城市民病院開院
27年　市民病院附属家庭医療センター完成
　　市制60周年記念プレミアム商品券販売
28年　北茨城市消防本部、消防署が新庁舎に移転
　　市制施行60周年記念式典挙行

そして未来へ…
～ひとの健康～
安心できる暮らしを全力でサポート

これからの北茨城市は、北茨城市民病院と附属家庭医療センターが核となり、「保健・医療・福祉サービス」を包括的に提供する体制づくりを進めます。子どもから高齢者まで、誰もが健やかに安心して生活できるよう、さまざまな機関や専門家が連携する仕組みにより、市民の生活と健康を守るための施策に最優先で取り組みます。

テニスコート

平成31年に開催される「いきいき茨城ゆめ国体ソフトテニス競技会」に向けて市民野球場の南側に16面のテニスコートを整備します。国体後も、数多くの大会誘致や健康増進事業を積極的に行い、北茨城市のスポーツの拠点として活用します。

明るい未来を
子どもたちへ ――
希望あふれる
北茨城を目指して

市民病院

平成26年11月に開院。
県北の中核病院として市民の生命と健康を守り、医療の質的向上の推進と地域に即した医療を提供しています。

家庭医療センター

平成27年6月に開所。
地域医療を推進するモデル診療所として在宅医療の実践並びに総合診療専門医および家庭医の教育施設としての役割を担っています。

～まちの健康～

充実した生活基盤で豊かな毎日を

人が集い、人を育むのは「まち」です。人口減少という大きな課題に直面する中で、まちを元気にするための地域活性化策に知恵を絞り、インフラ整備を進めていく必要があります。地方創生に欠かせないのは、まちの力。豊かな自然環境を守りながら、未来につながる新しい北茨城を目指します。

消防庁舎

消防本部は、2月に高台の新庁舎に移転。消防署と北部分署が統合して体制が強化されました。

また、市の中心部に位置することで各所への迅速な出動が確保されています。

関本小中学校

小中学校の統合・再編により、義務教育の9年間を見通し継続的で一貫性のある教育活動を行い、児童や生徒の個性や能力を伸ばす教育を目的とした関本小中学校が4月に開校します。

市立図書館

6月開館予定。野口雨情の「シャボン玉」をイメージした開放的な館内に、カフェを併設。開館時の蔵書数は15万冊。屋上は災害時の一時避難所としても機能します。

市制施行 60 周年記念式典挙行

～先人たちの功績に感謝　そして　未来に向かう新たな出発～

３月26日、北茨城市市制施行60周年記念式典が、関係者約350人の出席のもと市民ふれあいセンターで盛大に行われました。

式辞で豊田市長は、「北茨城市が60周年を迎えられたのは、これまで市民の皆さんをはじめ多くの方々のたゆまぬ努力によるものであり、感謝の念に耐えません。この60周年という節目を、未来に夢と希望の持てる北茨城市への出発点とし、「健康都市づくり」の実現に向け取り組んでいきます。」と述べました。

式典の第２部では、「大好きな北茨城」と題した小中学生の作文が披露されました。また、60年を振り返る映像も放映され、出席者の皆さんは、当時を懐かしんでいました。

作文披露

中一小５年　小室 奏音さん

関本中２年　鈴木 ひよりさん

雨情メドレーを披露する磯原中吹奏楽部

発行／北茨城市　編集／まちづくり協働課　〒319－1592 北茨城市磯原町磯原1630番地　☎0293－43－1111
◆ホームページ　http://www.city.kitaibaraki.lg.jp